

## 死生観と死別体験の国際比較：福岡，沖縄，ベンガル，バリ の比較から見えるもの

International Comparison of Belief in After-Life and Experience of Death by Using After-Life Scales : Findings from the Comparison within the Asian four Area, Fukuoka, Okinawa, Bengal, Bali

中村 俊哉  
Shunya NAKAMURA  
福岡教育大学

中島 義実  
Yoshimi NAKASHIMA  
福岡教育大学

倉元 直樹  
Naoki, T. KURAMOTO  
東北大学

中村 幸  
Koh NAKAMURA  
福岡県立大学

イカデ アンタルティカ  
I Kadek ANTARTIKA  
インドネシア国立ウダヤナ大学

(平成16年9月10日受理)

### 要約

福岡，沖縄，インドネシアのバリ島地区，インドのベンガル地区の4地域において，国際比較のための死生観尺度を用いて調査を行い，これらの尺度の英文，インドネシア語における信頼性を検討するとともに，4つの地域の間の死生観の比較を行った。その結果，魂の行方を決めるもの，祖先との対話などでは，大きな地域差があった。死者，祖先への働きかけは日本で高く，神への働きかけはバリ島，ベンガルで高かった。また輪廻観などはゆるやかだがヒンドゥー地域の方が高かった。同じヒンドゥーでもベンガルとバリ島の間には，様々な差(たとえば神との合体や魂の消滅について)があった。

Key words Dialogue with Ancestors, Obon, Reincarnation, Shamanism

### はじめに

筆者らは，死生観とそれに基づく日常的な  
いとなみが，同じアジアの人であっても大きく  
違うことに気づき，それらを比較すること  
を思いついた。一番違うと感じたのは，死者  
に対して，報告をしたり，話しかけるという  
日本においては日常的な行為を，理解できな  
い一群の人が居たことである。また，日本に  
おけるお盆にあたる行事が，アジアの一部で  
普遍的であるのかどうかにも興味を持ち，第  
一筆者がバリ島でインタビューを始めた頃，  
お盆に似たウリヤンが存在すること，魂は庭

のサンガクムランから招くということを知り  
た。インドのベンガル地域でのお盆について  
はすでに中村(2004a)で紹介したが，一部の  
バラモンにおいて継続していたものの，多く  
の人では，すでに失われていた。しかし，お  
供えをするという現象は，むしろ祖先より神  
を優位にして存在していた。

中村・倉元・中島(2004)に書いたとおり，  
日本の女性が，亡き夫の位牌を前に，毎日対  
話，報告するというような営みが，うつ状態  
を防いでいるのではないか，という仮説も生  
まれた。また，これらの尺度を作る過程で，

注)

本研究は，日本学術振興会科学研究費(課題番号 13571007)の補助を受けた。

死者の魂に直接働きかけるか、神を通して働きかけるかの違いが存在することが分かってきた。

また、すでにふれたように、一方で、地域によっては、この種の、祖先・死者に直接語りかけるファンタジーを抑制するところも多く、また急速に無宗教化しているところもある。たとえば革命後の中国での無宗教化も興味深い。

先述した位牌に向かって話しかける現象、魂の輪廻という素朴なファンタジーも存在する。しかし、これらがどの程度の人にとどの程度のリアリティを持って信じられているかは必ずしもはっきりしていない。これらの現象は、死に向かう心構えとも関連する。また、来世をどのようにとらえるかは、現在の生き方にも関連する。中村(2002)、中村、倉元、中島(2004)が述べたように、死生観の歴史、分布を知ること、そして心理学的な死生観のしくみを知るとは、自らの心構えを作るために重要と思われる。

そして、中村、倉元、中島(2004)は、これらのいわば民間信念(Folk Belief)の尺度を作成した。筆者らは、それらを用いて、アジア各国、ひいては、欧米などと比較することを考えた。また、死生観、来世観、神霊観といった民間信念と、うつ状態や幸福感といった心理的状态との関連性については、これらの尺度を作成した後の課題と言える。これらの相互関連が、文化によって一定である可能性と、文化によって違う動き方をしている可能性とがある。

本研究では、これらのうち、アジアの4地域(福岡、沖縄、ベンガル、バリ)の死生観の比較と、尺度の信頼性について報告を行う。4地域を選んだのは、文化心理学においては2点比較でなく、3点以上の比較が重要であるからである。

## 方法

### 調査対象者

1 福岡地区 213人(女性136人、男性73人)にたいして、大学における授業及び夏期の成人向けのセミナーにおいて集団法で実施した。2003年8月、12月、2004年2月に実施した。

2 沖縄地区 243人(女性110人、男性103

人)にたいして、大学における授業及び夏期の成人向けのセミナーにおいて集団法で、さらに大学生、大学院生、及びその知人に持ち帰り記入の形で実施した。2003年8月、10月、2004年2月に行われた。

3 インドのベンガル地区。シャンティニケタンのヴィシュワヴバーラティ大学において、162人(女性81人、男性79人)に対して、授業、及び学生の持ち帰り記入の形で実施した。2004年2月に実施した。

4 インドネシアのバリ島地区。162人(女性89人、男性79人)のウダヤナ大学の大学生及び大学関係者に、持ち帰り記入の形で2004年2、3月に実施した。

### 質問項目

- 1 魂の居場所(尺度ラベル:Place, 13項目)
- 2 魂の自律観と神の決定観(尺度ラベル:DTRM, 8項目)
- 3 お盆(尺度ラベル:OBS, 4項目)
- 4 霊魂尺度(尺度ラベル:DSS, 12項目)
- 5 祖先対話尺度(尺度ラベル:ADS, 4項目)
- 6 祖先、神への働きかけ(尺度ラベル:GAA, 7項目)
- 7 輪廻尺度(尺度ラベル:RICN, 11項目)
- 8 因果尺度(尺度ラベル:CAUS, 2項目)
- 9 シャーマニズム尺度(尺度ラベル:SHS, 12項目)
- 10 神尺度(尺度ラベル:GS, 14項目)
- 11 終末論尺度(尺度ラベル:ES, 9項目)
- 12 シンクレティズム態度尺度(尺度ラベル:SCT, 5項目)
- 13 西沢のスピリチュアリティ尺度(尺度ラベル:SPS, 5項目)
- 14 Wongの死への態度尺度短縮版(尺度ラベル:DAPR, 10項目)
- 15 空想対話尺度(尺度ラベル:FDS, 5項目)
- 16 Singelis 1994のSelf-Construal Scale相互協調性尺度(尺度ラベル:SCS 6項目)
- 17 Dienerら1985の人生満足度尺度(尺度ラベル:SWLS 5項目)
- 18 死別うつ尺度
- 19 宗教別人数
- 20 ターミナルケア項目
- 21 自分の葬式の希望形態

- 22 家族構造とコミュニティ  
 23 一般健康調査（尺度ラベル：GHQ12 12 項目）

これらのうち、本稿では1から19までを報告する。

**翻訳およびバックトランスレーション**

インドネシア語および英語、中国語の翻訳とバックトランスレーションを行った。ここでは、インドネシア語版および英語（インド）版のそれについて述べる。完全な翻訳をめざしているものの、全てが完全に翻訳できるわけではない。いかにその文化に近いものにするかをめざし、若干のニュアンスのずれがあるときは、あらかじめそれを先に予想し、それをこみにして考察するのが望ましい。

英語版とインドネシア版では、「Place-3 海の彼方」を、「海の表面か中」と表現した。

インドネシア版では、「OBS-1の夏のお盆」から、夏をカットしている。これは、バリ島では夏に限らないからである。

インドネシア版では、「GAA-1-3 土地の神と霊」は、「プルティウィとロー」としている。インドネシア語の方が、意味が広がる可能性がある。

インドネシア版では、「SCTS-5の七五三」を、「その子どもが違う宗教でお祝いされるのは問題ない」としたが、意味は少し狭くなる。

インドネシア版の DSS-5 は、「魂からの呪

い」と訳した。SPS-4には「モスク、ヒンドゥーの寺、教会で祈る」という具体例を入れた。「位牌」は、「死者のシンボル」としたので、やや意味が広がる。

インド版では、OBS-4の3つの項目（表4）がオリジナルで、「死者の記念日（命日）」も入れた。これは、あとあと使える項目であることが分かった。RICNのインド版輪廻尺度では、項目9の「早く」がなく、このニュアンスだけ、若干高く出る可能性がある。

また、インドネシア版だけにGAA2（死者の平安を祈る対象）の項目として「土地の神や霊」を入れた。比較の分析からは除外する。

**結果**

以下に、6つの章に分けて、それぞれの尺度の4地域での結果について述べ、その信頼性と、さらにそれらの妥当性について検討する。

**I お盆、魂**

**1 魂の居場所 Place：13項目**

「イメージで結構ですが、魂があるとして、死後に魂がいるのはどこだと思いますか」という問いにより、死後の魂の所在について聞いたものである。魂の居場所と想定されるものは、必ずしも1カ所に特定できるものではないようである。

魂の居場所		福岡		沖縄		ベンガル		バリ	
Place	母数	212	%	237	%	154	%	159	%
1	天の上の方	92	43.4	94	39.7	18	11.7	17	10.8
2	山の奥深く	11	5.2	6	3.6	3	1.9	1	0.6
3	海のかなた	11	5.2	20	11.6	3	1.9	3	2.5
4	家の中	33	15.5	34	14.3	1	0.6	6	3.8
5	家のそば、敷地	17	8.0	15	6.3	3	1.9	10	6.3
6	お墓	39	18.3	58	24.5	4	2.6	9	5.7
7	どこか分からないところ	67	31.5	69	29.1	67	43.5	79	49.7
8	地の下の方	3	1.4	2	1.2	4	2.6	2	1.3
9	宇宙の遠いところ	28	13.1	24	10.2	16	10.4	2	1.3
10	大切な人のそば	120	56.3	119	50.2	24	15.6	24	15.1
11	別世界	89	41.8	103	43.5	65	42.2	112	70.4
12	月の世界	2	0.9	6	3.6	2	1.3	1	0.6
13	その他	23	10.8	9.9	9.9	36	23.4	12	7.7

表1 魂の居場所

表1によると、日本では4割ほどの人が、魂は「天の上の方」に行くと考えているが、ベンガルでもバリ島でも1割ほどにすぎなかった。日本では2割ほどの人が、「家の中」や「お墓」と答えているが、「家のそば・敷地」という回答でバリ島に同じ程度見られた他は、バリ島でもベンガルでも、「家の中」「お墓」は低かった。これは、中村（印刷中）のインドネシアバリ島でのインタビューにみられるイメージ（お墓にいるか、敷地にいるとした人が多かったこと）よりも低い。対象者の多い質問紙のデータは尊重されるべきであろう。なお、沖縄でのインタビューでも「お墓」という回答が見られたが、データ上でも福岡よりも沖縄の方が多い。「大切な人のそば」という回答も、日本が5割を超えるのに対して、ベンガル、バリ島とも15%にすぎなかった。ここからは、ベンガルやバリで、これらのイメージを抑制しているか、あるいは日本で、一定の文化装置が曖昧化していて、素朴なものが浮上しやすくなっていることがうかがえる。一方、「どこか分からないところ」という回答は、ベンガル、バリ島で日本よりも多く、「別世界」も特にバリ島で多かった。よ

り抽象的で、距離があるといえよう。また、「地の下の方」「月の世界」という回答は4地域とも希薄であった。また、「宇宙の遠いところ」という回答は、日本とインドで同じ程度あったが、バリ島では全くなかった。4地域とも、合理的な判断をしているが、日本の方がより具体的に身近に魂をイメージし、感じていることが分かった。福岡と沖縄は、「海の彼方」「お墓」で後者が多かった他は、ほとんど差がなかった。

## 2 魂の自律観と神の決定観 DTRM: 8項目

「死後の処遇を誰が決めるのか」についての8項目の質問について、「そう思わない」～「そう思う」の5件法で回答してもらった。得点化する場合は、「そう思わない」が1点～「そう思う」が5点とした。

これらの質問項目では、一神教的な発想と、その対極にあるような魂の自由な動き、さらには無神論的な発想の3種類を示している。

以下の尺度では、中村、倉元、中島(2004)の尺度をベースに、それに対応した形で分析する。

魂の自律観・神の決定観尺度		福岡		沖縄		ベンガル		バリ		F値
		n=209		236		n=150		160		
		平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
死んだ後どうなるかは、魂自身が決めることである	DTRM 1	2.51	1.20	2.69	1.24	2.60	0.98	2.94	1.60	3.5
死後に天に行くか、地の下に行くかは、魂自身が決めることである	DTRM 5	2.32	0.99	2.40	1.11	2.60	1.09	2.81	1.49	6.5
死後にどこに行くかは、魂の格、レベルできまる	DTRM 6	2.25	1.16	2.30	1.24	2.91	1.12	2.88	1.43	15.8
死んだ後どうなるかは、神が決めることである	DTRM 2	2.50	1.27	2.62	1.24	3.09	1.15	4.28	1.26	77.5
死後に天国に行くか、地獄に行くかは、神が審判して決めると思う	DTRM 7	2.37	1.27	2.55	1.27	2.98	1.27	4.35	1.16	87.1
残された家族が、貧しい人に物をあげたり、お坊さんに食事を出したりすることが、死者の魂の行き先により影響を与える	DTRM 8	2.10	1.05	2.20	1.11	3.05	1.19	3.36	1.34	70.2
死んだ後、体とともに魂は消滅すると思う	DTRM 3	2.48	1.23	2.28	1.20	2.84	1.11	1.84	1.23	19.7
死んだら、体とともに魂も大自然の元素に戻ると思う	DTRM 4	2.97	1.24	3.00	1.19	3.28	1.15	3.89	1.40	21.5

表2 「魂の自律観と神の決定観」の比較

項目を比較すると、「魂の自律観」に相当する項目では、バリ島、ベンガル、沖縄の順に高いが、分散分析からは、大きな差とは言えない。「神の決定観」に相当する項目は、バリ

島が際だって高く、ベンガルも高い一方、福岡、沖縄は低い。ただし、お布施に関する項目、つまり、貧しい人や聖職者に奉仕することで、死者の魂の行方により影響があるとい

う「影響観」は、ベンガルだけが高く、日本ではきわめて低い。死後に魂は「消滅する」は、ベンガルが一番高く、福岡、沖縄が続き、バリ島は低い。ここが、ベンガルとバリ島の大きな違いである。インドでは、唯物論的、合理的な思考も健在である。死んだ後、魂も大自然の元素に戻るという「還元」は、バリ島、ベンガルの順に高く、日本もさほど低くない。筆者等の予想では、「消滅」「還元」ともに日本が一番高いというものであったが、予想に反して前者はベンガル、後者はバリ島が一番高かった。

### 3 お盆 OBS：4項目

お盆についての質問は4項目である。うち3項目は尺度として表3に示した。以下、本論文では、日本語版の尺度構造を元に分析す

る。なお、OBN4は、祖先が戻る時期を聞いたものである。OBS4については、それぞれの時期についての回答分布を表4に示す。

表3によると、お盆の行事を行っているのは、沖縄が一番高く、バリ島、福岡がその次に高い。「食事をするとときに死者にも出す」のは、バリ島、沖縄が高かった。インドベンガル地方では両方とも、少なかった。また「海で泳いではいけない」という観念は、沖縄のみが高く、ベンガル、バリ島、福岡は低かった。OBS3「海で泳いではいけない」という項目は、お盆行事の実施と相関をとると、ベンガル、バリ島では中程度に高い。死者の霊が海の中から引っ張るといふ東アジア的な観念について確認はできないが、お盆行事をしている人々は、ベンガルやバリ島でも海に入らないことが分かった。

お盆尺度	福岡			沖縄			ベンガル			バリ			
	n, α係数	n=211	α=0.47	240	0.56	n=146	α=0.69	161	0.75				
	平均	SD	相関	平均	SD	相関	平均	SD	相関	平均	SD	相関	
OBS1	私の家では、夏のある期間、死者の魂を家に迎え入れる儀式を行う	3.47	1.54	0.34	4.16	1.34	0.45	2.48	1.6	0.47	3.55	1.5	0.67
OBS2	親戚で集まって食事をすると、死んだ人がそこに存在するかのように、死者にも食事を出す	2.48	1.51	0.33	3.55	1.55	0.43	2.35	1.41	0.59	3.66	1.5	0.7
OBS3	お盆の間、海で泳いではいけないと思う	2.55	1.55	0.2	4.04	1.28	0.25	2.81	1.36	0.49	2.71	1.3	0.41
	尺度値	8.49	3.2		11.8	3.06		7.64	3.45		9.9	3.5	

表3 お盆尺度

表4は、「あなたの考えでは死者、祖先が戻るの、いつですか。あてはまるところに、いくつでも○をつけてください（OBS4）」への回答結果である。

沖縄は、旧暦のお盆が82%であり、福岡は新暦のお盆が61%であった。同じく沖縄では旧正月に31%の人が祖先を迎えるが、福岡では4%にすぎない。清明節は、沖縄の習慣で、

中国の影響を受けたものといえ、31%の人が先祖を迎えるイメージを持つ。春分、秋分は、福岡でも7%にすぎない。ベンガルのみ聞いた記念日は、29%の人が死者の霊を迎えるとイメージしていた。戻らないとした人は、ベンガルに多く、何時もいるとした人は、バリ島と福岡に多かった。

日本語版項目	福岡		沖縄		ベンガル		バリ		ベンガル版項目	インドネシア版項目
度数/%	212	%	237	%	154	%	154	%		
新盆	129	60.6	42	24.7	なし	なし	31	20.1	なし	祖先への祭り
旧盆	75	35.2	139	81.8	20	13.2	25	16.2	Batsorik Tarpan	旧暦による祖先への祭り
清明節	0	0	52	30.6	なし	なし	2	1.3		清明節
春分	15	7	5	2.9	2	1.3	1	0.6	Spring Equinox	春分
新正月	31	14.6	34	20	2	1.3	12	7.2	New Year (solar calendar)	正月
旧正月	8	3.8	52	30.6	0	0	3	2.6	New Year (lunar calendar)	春節
秋分	15	7	6	3.5	0	0	0	0	Fall Equinox	秋分
イースター	1	0.5	1	0.6	0	0	3	1.9	Easter	イースター
その他	9	4.2	7	4.1	13	8.6	31	20.1	Others	その他
いつもいる	60	28.2	31	18.2	29	19.2	65	42.2	exist anytime	いつもいる
戻らない	24	11.3	12	7.1	49	29.7	24	15.6	never return	戻らない
なし	なし		なし		5	3.3	なし		Nabaratri	なし
なし	なし		なし		43	28.5	なし		Batsarik Sradho(the anniversary)	なし

表4 魂の戻る時期

## 4 霊魂尺度 DSS: 12項目

霊魂尺度	n, $\alpha$ 係数	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		平均	SD	全体とのr	平均	SD	全体とのr	平均	SD	全体とのr	平均	SD	全体とのr
DSS1	交通事故で死んだ人が出たら、道に花束を手向けて霊を慰めるとよい	3.67	1.03	0.46	3.81	1.03	0.31	2.64	1.09	0.15	3.49	1.33	0.31
DSS2	霊的な場所に行ったあと、人に霊が付いてしまうことがありうる	3.25	1.23	0.74	3.78	1.10	0.65	2.77	0.98	0.39	3.26	1.17	0.51
DSS3	死んだ後、魂は消滅せずに、存続すると思う	3.36	1.18	0.6	3.51	1.11	0.62	3.27	1.07	0.39	4.57	0.43	0.20
DSS4	お墓の近くを夜一人で歩くと、霊が出そうで怖い	3.69	1.27	0.75	3.97	1.12	0.60	3.17	1.19	0.47	4.10	1.08	0.43
DSS5	世の中には霊の「たたり」があると思う	3.36	1.28	0.78	3.65	1.17	0.72	3.09	1.1	0.59	3.70	1.30	0.60
DSS6	霊が勝手に人の手を動かして、「はい」、「いいえ」などの文字を指すことがある	2.32	1.18	0.6	2.56	2.91	0.29	2.75	1.01	0.52	3.23	1.27	0.58
DSS7	お化けや幽霊が怖い	3.60	1.32	0.67	3.74	1.23	0.49	2.96	1.26	0.55	3.79	1.30	0.48
DSS8	天や浄土に行けずに地上にさまよう霊が多数あると思う	3.36	1.32	0.75	3.67	1.15	0.69	2.85	1.05	0.54	4.43	0.87	0.42
DSS9	幽霊が出そうで、夜、一人で暗いトイレに行くのが怖い	2.59	1.35	0.59	2.46	1.35	0.45	2.32	1.16	0.42	2.70	1.40	0.41
DSS10	祖先の霊が、あなたに呼びかけるために、ドアの音を鳴らしたりすることがある	1.83	1.07	0.48	1.91	1.09	0.45	2.4	1.08	0.62	3.11	1.26	0.50
DSS11	霊の怨念を鎮めることで、いろいろな問題が解決することがある	2.69	1.28	0.74	2.85	1.33	0.60	2.44	1.00	0.55	3.24	1.25	0.50
DSS12	この世に生まれなかった水子の霊は、供養しなければいけない	3.68	1.25	0.54	3.75	1.22	0.54	2.65	1.04	0.47	4.45	1.01	0.47
	尺度値	37.4	10.5		39.7	9.8		33.3	7.55		44.1	7.98	

表5 霊魂尺度

霊魂尺度は、すべての地域で一貫性があり、高い信頼性を示した( $\alpha = 0.91, 0.82, 0.82, 0.81$ )。尺度値は、バリ島が44.1で一番高く、次に沖縄39.7、福岡37.4と続き、インドベンガル地方は33.3と低かった( $F(3,745) = 36.7^{**}$ )。例えば、霊への恐怖を示す「お墓の近くが怖い」も同じようにバリ島が一番高く、沖縄、福岡と

続いて、ベンガルが一番低い。「トイレに行くのが怖い」はバリ島、福岡、沖縄、ベンガルの順である。インド(学生が多かった)で、福岡より高くなったのは、プランシェ(planchete)(こっくりさんに相当する)だけであった。ただし、ここにおいても、宗教別、年齢別の分析をする必要がある。

II 祖先対話，祖先，神などのやりとり

5 祖先対話尺度 ADS：4項目

祖先対話尺度 n, $\alpha$ 係数	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島			
	n=213	$\alpha=0.84$		n=242	$\alpha=0.76$		n=160	$\alpha=0.76$		n=162	$\alpha=0.88$		
	平均	SD	全体とのr	平均	SD	全体とのr	平均	SD	全体とのr	平均	SD	全体とのr	
死者の魂に対して、よく何かを問いかける	ADS1	3.3	1.3	0.72	3.09	1.43	0.55	2.24	1.37	0.51	2.9	1.5	0.67
死者の魂に対して実際声を出して話しかけ、近況報告や健康の感謝をする	ADS2	2.7	1.4	0.62	2.75	1.33	0.58	2.24	1.28	0.5	3.6	1.5	0.79
死者は、どこかでこの世の子孫たちを見守っているはずだ	ADS3	4.1	1.1	0.71	4.08	1.05	0.54	2.76	1.48	0.6	4.2	1.2	0.81
死者は、子孫が危険な目にあうとき、助けてくれることがある	ADS4	3.6	1.1	0.66	3.68	1.14	0.60	2.71	1.49	0.6	3.9	1.3	0.75
尺度値		13.8	4.0		13.6	3.8		9.95	4.3		14.6	4.9	

表6 祖先対話尺度

少ない項目ながら、4地域とも、本尺度は高い信頼性を示した( $\alpha=0.84, 0.76, 0.76, 0.88$ )。死者や祖先との対話・やり取りのイメージ・

信念は、バリ島が高く、福岡、沖縄が続き、インドベンガルが一番低かった( $F(3,771)=40.0^{**}$ )。

6 祖先，神等への働きかけ GAA：7項目

祖先，神等への働きかけ1-4	福岡		沖縄		インドベンガル		バリ島	
	212	%	239	%	154	%	166	%
GAA1お供えの食べ物をおくのは、								
神に	25	11.8	16	6.7	88	57.1	78	48.8
死者，祖先に	187	88.6	208	87.0	19	12.3	67	41.9
土地の神や霊に	35	16.5	45	18.8	16	10.4	76	47.5
仏・菩薩に	36	17.0	13	5.4	6	3.9	1	0.6
その他	1	0.5	7	2.9	25	16.2	37	23.1
お供えをしない	12	5.7	12	5.0	41	26.6	28	17.5
GAA2死者の魂の平安を祈るのは、								
神に頼む	31	14.6	32	13.4	95	39.1	140	87.5
死者の魂に直接祈る	181	85.4	201	84.5	11	7.1	34	21.3
土地神祈							44	37.5
仏・菩薩に	46	21.7	10	4.2	4	2.6	0	0
その他	6	2.8	4	1.7	9	5.8	11	6.9
祈らない	7	3.3	8	3.4	37	23.7	2	1.3
GAA3元気でいることを感謝するのは、								
神	30	14.2	24	10.0	57	36.3	24	15
唯一神	12	5.7	15	6.2	54	34.4	153	95.6
祖先，死者	147	69.3	148	61.4	2	1.3	51	31.9
土地の神や霊	15	7.1	24	9.9	3	1.9	24	15
仏・菩薩	32	15.1	9	3.7	4	2.5	0	0
その他「親」	34	16.1	30	12.4	18	11.5	9	5.9
しない	21	10.0	40	16.6	28	17.8	2	1.3
GAA4苦しいときに助けを求めるのは、								
神	47	22.2	40	16.6	47	29.9	19	11.9
唯一神	24	11.3	16	6.6	70	44.6	153	95.6
祖先，死者	105	50.0	102	42.3	3	1.9	56	35
土地の神や霊	11	5.2	11	4.5	5	3.2	22	13.8
仏・菩薩	34	16.0	7	2.9	6	3.8	0	0
その他「親・友」	24	11.3	31	12.9	22	14	7	4.4
求めない	40	18.9	48	19.9	13	8.3	2	1.3

表7 祖先，神等への働きかけ1-4

死者にお供えをするのは、福岡と沖縄であり、インドでは少なく、バリ島では半数にとどまる。一方、神にお供えするのは、インドで高く、バリ島では半数、福岡と沖縄は少ない。福岡と沖縄を比較すると、仏、菩薩にお供えをするのが、福岡の方が高い。その他、バリ島では、土地の神・霊にお供えをする比率が群を抜いて高い。その他へのお供えとは、へその緒などの霊的なものに対してであろう。

直接死者に対して平安を祈るのが、福岡、沖縄で80%を超えるが、バリ島では、20%ほど、インドでは7%にすぎない。一方、神に死者の平安を祈るのは、バリ島が88%、インドが40%近いのに対して、日本では14%前後である。土地神については、バリ島だけの質問であるが、かなりの高い%になっている。仏、菩薩については、福岡が突出している。

元気であることを感謝するのは、神とするのがインドベンガル36%で一番高い。唯一神とするのは、バリ島の96%であり、一番高く、インド34%が続く。福岡も沖縄もこれらはきわめて低い。一方、死者に元気であることを感謝するのは、福岡69%、沖縄61%で高く、

バリ島が32%で続く。インドでは、きわめて低い。このように、祖先、死者の位置づけは、日本とインドでは対極にあり、バリ島は両方を残していると言えるが、唯一神（このデータにはサンヒャンウディとアラーが含まれている）への位置づけは独特である。しばしば日本では祖先が神であると言われるのは、死後50年後のことではなく、具体的に現在形で起こっていることかもしれない。中村（印刷中）は、バリ島での祖先が一つにまとまっているという報告をしている。一方、日本では、対話の対象は、生前の姿を持つ個別の死者である。日本でこれまでにいわれてきた「ご先祖様」信仰が後退して、個別具体化している可能性もありうる。

また、苦しいときに助けを求めるのは、福岡、沖縄においても唯一神の比率が上がるものの、バリ島、ベンガルに比較してきわめて低いことは変わらない。その他で、(生きている)親や友人に助けを求める比率は、インド、沖縄、福岡で10%を越えたのは興味深い。これらと、表20の空想対話尺度との関連がありそうである。バリ島の回答については、インドネシア語をさらに精査する必要がある。

祖先、神等への働きかけ5-7	福岡		沖縄		インドベンガル		バリ島	
	212	%	237	%	156	%	159	%
GAA5 家のなかに祈りの場があるのは、								
神	34	16.0	33	13.8	46	29.5	69	43.1
唯一神	4	1.9	4	1.7	66	42.3	125	78.1
祖先、死者	152	71.7	161	67.1	3	1.9	95	59.4
土地の神や霊	14	6.6	28	11.7	11	7.1	31	19.4
仏・菩薩に	56	26.3	8	3.3	8	5.1	3	1.9
その他	1	0.5	4	1.7	7	4.5	5	3.1
ない	31	14.6	30	12.5	7	4.5	5	3.1
GAA6 死後はどこに行きたいですか								
神の許へ行きたい	21	10.0	21	8.9	41	26.6	47	29.6
神と合体したい	1	0.5	2	0.8	26	16.9	79	49.7
解脱したい	10	4.7	13	5.5	30	19.5	105	66.0
次の人生を送りたい	89	42.2	109	46.0	40	26.0	19	11.9
仏の許へ	13	6.1	5	2.1	5	3.2	2	1.3
先に死んだ家族や知人のいるところへ	142	67.3	141	59.5	17	11	13	8.2
GAA7 花をささげるのは、								
神に	17	8.0	12	5.0	77	49	96	60
祖先、死者	189	89.6	195	81.9	28	17.7	72	45
土地の神や霊	21	9.9	24	10.0	23	14.6	57	35.6
仏・菩薩に	28	13.1	5	2.1	8	5.1	1	0.6
その他	1	0.5	3	1.3	11	7	32	20.0
花をささげない	16	7.5	23	9.6	29	18.4	26	16.3

表8 祖先、神等への働きかけ5-7



唯一神への祈りの場があるのは、バリ島が78%、インドが42%に対して、福岡も沖縄も2%に満たない。神への祈りの場となると、バリ島43%、ベンガル30%、福岡16%、沖縄14%という、多神教地区の歴史をうかがわせる結果となった。

死後に神の許に行きたいとする人は、バリ島30%、ベンガル27%で、日本は10%以下である。神と合体したいという人は、バリ島50%、ベンガル17%であり、日本ではほとんどいない。中村（印刷中）にあるように、バリ島では神と一体化するという本来のヒンドゥー的考えがかなり行き渡っている。神のそばに行くという考えが、イスラム教の影響が強いと言えよう。

さて、死後に解脱したいという人も、バリ島が66%と高く、ベンガル20%が続き、日本は5%前後にとどまる。これらは、ヒンドゥー・仏教

的な伝統が、日本ではほとんどないということを示している。次の人生を送りたいというのは、沖縄46%、福岡42%、ベンガル19%、バリ島12%であり、日本の方が高い。日本の方が、現世を苦痛と感じていないため、輪廻を好ましいものとする傾向にあると思われる。先に死んだ家族や知人のいるところへ、という回答は、福岡67%、沖縄60%と圧倒的に日本で高く、インドで11%、バリ島で8%となった。日本では、親族、知人が全員同じ他界に行くと考えていることが示されている。この考え方が、死別うつ状態の低さとどう関係があるか、興味深いところである。

花をささげるのは、神とするのが、バリ島60%、ベンガル49%であるが、福岡8%、沖縄5%と低い。逆に、祖先、死者に花をささげるのは、福岡90%、沖縄82%、バリ島45%、インドベンガル18%である。

祖先への働きかけ	項目ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n=208	0.74		226	0.70		n=146	0.92		n=159	0.81	
度数・α係数		平均	SD	項目合計 相関	平均	SD	項目合計 相関	平均	SD	項目合計 相関	平均	SD	項目合計 相関
祖先にお供え	GAA1-2	0.90	0.32	0.53	0.87	0.34	0.38	0.127	0.33	0.13	0.42	0.50	0.64
直接祖先へ祈る	GAA2-2	0.87	0.34	0.28	0.85	0.36	0.40	0.08	0.29	0	0.21	0.41	0.46
祖先に健康を感謝	GAA3-3	0.71	0.46	0.60	0.82	0.49	0.55	0.01	0.12	0.7	0.32	0.47	0.63
祖先に苦しいとき助けを求める	GAA4-3	0.51	0.50	0.48	0.43	0.50	0.49	0.02	0.14	0.8	0.35	0.48	0.63
祖先に祈る場あり	GAA5-3	0.74	0.47	0.51	0.67	0.47	0.51	0.02	0.14	0.51	0.60	0.49	0.50
祖先、先に行った家族のもとに行きたい	GAA6-6	0.68	0.47	0.40	0.59	0.49	0.17	0.12	0.33	0.12	0.08	0.27	0.25
祖先に花を供える	GAA7-2	0.90	0.30	0.45	0.82	0.38	0.44	0.17	0.38	0.11	0.45	0.50	0.67
AC7尺度値		5.30	1.83		4.85	1.83		0.55	0.86		2.44	2.2	

表9 祖先への働きかけ尺度 (AA7)

これらの中から、祖先への働きかけの項目7つで構成された祖先への働きかけ尺度 (AA7) を見ると、福岡が5.3で高く、沖縄4.9、バリ

島2.4、インドベンガル地方0.6となった。日本では祖先に対しての働きかけが高いことが明らかである。F(3,654)=238.4\*\*

神への働きかけ尺度	項目ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n=210	0.75		227	0.68		n=142	0.54		n=159	0.73	
度数・α係数		平均	SD	項目合計 相関	平均	SD	項目合計 相関	平均	SD	項目合計 相関	平均	SD	項目合計 相関
死者の平安を神に祈る	GAA2-1	0.15	0.36	0.54	0.13	0.34	0.49	0.61	0.49	0.55	0.87	0.33	0.25
健康を唯一神に感謝	GAA3-2	0.10	0.72	0.31	0.07	0.25	0.22	0.34	0.48	0.09	0.96	0.21	0.29
苦しいときに唯一神に	GAA4-2	0.11	0.32	0.16	0.07	0.26	0.19	0.46	0.50	0.01	0.96	0.21	0.27
唯一神に祈る場	GAA5-2	0.02	0.14	0.18	0.01	0.09	0.07	0.44	0.50	0.16	0.78	0.42	0.32
神の許に逝きたい	GAA6-1	0.10	0.30	0.54	0.09	0.29	0.35	0.29	0.46	0.17	0.30	0.46	0.08
神にお供え	GAA1-1	0.12	0.33	0.61	0.10	0.64	0.17	0.44	0.50	0.44	0.52	0.50	0.53
神に花	GAA7-1	0.08	0.27	0.58	0.04	0.21	0.33	0.50	0.50	0.32	0.60	0.49	0.44
健康を神に感謝	GAA3-1	0.14	0.35	0.58	0.11	0.31	0.37	0.38	0.49	0.25	0.15	0.36	0.48
苦しい時に神に	GAA4-1	0.22	0.42	0.42	0.17	0.37	0.33	0.30	0.46	0.29	0.12	0.33	0.49
神に祈る場	GAA5-1	0.16	0.37	0.40	0.14	0.35	0.24	0.29	0.37	0.19	0.43	0.50	0.57
神と合体したい	GAA6-2	0.00	0.07	0.13	0.01	0.09	0.10	0.16	0.37	0.04	0.50	0.50	0.41
尺度値		1.2	4.3		0.9	2.4		4.2	4.9		6.2	5.2	

表10 神への働きかけ尺度 (GA11)

祖先とは逆に、神に対する働きかけは、バリ島、ベンガルが高く、福岡、沖縄はきわめ

て低い。F(3,654)=238.4\*\*

## III 輪廻

## 7 輪廻尺度 RICN : 11 項目

輪廻尺度	n, $\alpha$ 係数	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
今の人生の前に、別の人間であつたような気がする	Ricn1	2.4	1.4	0.65	2.5	1.4	0.54	2.9	1.3	0.73	4.1	1.3	0.69
死者の魂は人間に再生することがある	Ricn2	2.9	1.4	0.79	2.9	1.3	0.80	2.9	1.1	0.78	4.1	1.3	0.83
死後の魂は、しばらくはどこかにいるが、そのうち地上に戻って何らかの生命に再生する	Ricn3	2.9	1.4	0.85	3.0	1.3	0.84	2.8	1.1	0.77	4.2	1.3	0.82
ある特別な人々は、何度も生まれ変わって、世の中のために尽くすことがある	Ricn4	2.6	1.3	0.67	2.6	1.3	0.70	3	1.2	0.66	3.8	1.4	0.68
天国に行ったとしても、再び人間に戻ることがある	Ricn5	2.9	1.4	0.81	2.9	1.4	0.80	2.8	1.2	0.72	3.5	1.4	0.70
地獄に行ったとしても、修行をすれば天国に移ることができる	Ricn6	2.5	1.2	0.68	2.6	1.3	0.70	2.9	1.1	0.66	3.3	1.2	0.35
時々、かつて体験したような気がするのがあるのは、前世の記憶かも知れない	Ricn7	2.7	1.4	0.63	2.7	1.3	0.60	2.9	1.1	0.52	3.8	1.3	0.33
次に生まれ変わるとき、人間以外の動物になることもありうる	Ricn8	3.3	1.3	0.67	3.2	1.4	0.67	3	1.1	0.73	3.8	1.4	0.70
前の人生で良いことをすると、早く人間に生まれ変わる	Ricn9	2.3	1.1	0.60	2.3	1.2	0.64	2.8	1.2	0.68	3.8	1.3	0.74
死後に人間に生まれ変わることは、楽しみなことだ	Ricn10	2.7	1.3	0.56	2.8	1.3	0.55	3	1.1	0.52	3.4	1.5	0.49
動物は、かつて人だったかも知れない魂を持つ	Ricn11	2.7	1.3	0.76	2.7	1.3	0.71	2.8	1.2	0.71	3.8	1.4	0.78
尺度値		30.0	11.0		30.3	10.9		31.9	9.4		41.5	10.7	

表 11 輪廻尺度

輪廻尺度は、バリ島が一番高く、ベンガルが得られた ( $\alpha=0.92, 0.92, 0.02, 0.90$ )。沖縄、福岡がほぼ同じ値となった ( $F(3,736)=44.3^{**}$ )。4 地域とも高い信頼性係数

## 8 因果尺度 CAUS : 2 項目

因果尺度	n, $\alpha$ 係数	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
この世でよい人生を生きないと、次に生まれ変わるときあまりよくない人生になる	Cause1	2.5	1.3	0.71	2.4	1.4	0.64	2.8	1.5	0.67	4.4	1.2	0.39
この世で良い人生を生きれば、死後の世界はすばらしいものになる	Cause2	2.7	1.3	0.71	2.7	1.3	0.64	3.1	1.3	0.67	4.7	0.66	0.39
尺度値		5.2	2.4		5.2	2.5		5.8	2.6		9.1	1.5	

表 12 因果尺度

因果尺度は、バリ島において最も高く、次にインドベンガルが高くなった ( $F(3,765)=124.9^{**}$ )。

IV シャーマニズム・ヒーラーおよび神霊観

9 シャーマニズム尺度 SHS : 12 項目

変容シャーマニズム n, $\alpha$ 係数	尺度ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n=212	0.89		n=240	0.77		n=155	0.81		n=158	0.64	
		平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
何かの霊が影響して病気になっているとして、それに気づく霊感の強い人が存在すると思う	SHS2	3.24	1.41	.76	3.52	1.30	0.63	0.26	1.1	0.54	4.04	1.1	0.45
神や霊の影響で、心身に聖なる変化が起こることがあると思う	SHS5	2.58	1.40	.74	2.94	1.28	0.70	3.2	1.2	0.57	4.66	0.8	0.26
霊が人の体に入るとき、意識状態が変わることがあると思う	SHS6	2.74	1.37	.76	3.07	1.22	0.68	2.97	1.2	0.64	4.42	0.9	0.45
神や死者の霊を呼び出して、その魂の意志を読みとることができる人が存在すると思う	SHS7	2.91	1.37	.79	3.46	2.38	0.41	2.8	1.2	0.67	4.11	1.2	0.46
夢の中に神や死者が出てきて、何かのメッセージを言うと思うと、それを尊重する	SHS8	3.10	1.24	.57	3.23	1.20	0.57	3.04	1.1	0.61	3.87	1.1	0.34
尺度値		14.6	5.6		16.2	5.6		14.7	4.42		16.9	5	

表 13 変容シャーマニズム尺度

変容シャーマニズムは、自分の精神が霊的な力、魂、神によって変容するという信念を示している。沖縄とバリ島において、これらは高い値を示した ( $F(3,761)=62.5^{**}$ )。ただし、

バリ島が日本と同じ尺度構造であるかどうかは、今後の検討課題となろう ( $\alpha=0.89, 0.77, 0.81, 0.64$ )。

委任シャーマニズム 2 n, $\alpha$ 係数	尺度ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n=213	0.83		n=236	0.84		n=152	0.80		n=161	0.88	
		平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
不思議なことがあれば、ユタやイタコなど呪術師に相談し、見てもらう	SHS3	1.55	.89	.60	2.21	1.29	0.58	2.45	1.1	0.54	3.30	1.5	0.72
ユタやイタコなどの呪術師の所に行ったことがある	SHS4	1.26	.83	.56	2.11	1.54	0.60	2.18	1.1	0.63	3.61	1.5	0.70
死者の言いたかったことを知るために、伝統的な呪術者、宗教者に頼み、その人を通して知ることがある	SHS11	1.24	.69	.75	1.83	1.22	0.77	2.43	1.1	0.62	3.39	1.6	0.68
死者、祖先の考えを知るために、伝統的なシャーマン(呪術者)に死者、祖先の考えを言葉にしてもらうことがある	SHS12	1.21	.65	.81	1.77	1.20	0.79	2.45	1.2	0.66	3.10	1.7	0.63
尺度値		5.26	2.52		7.9	4.3		9.51	3.57		13.4	5.4	

表 14 委任シャーマニズム尺度

委任シャーマニズムは、シャーマン(例えばユタ、オージャ、バリヤン)への信頼を表している。死者や祖先の魂と交信するシャーマンを信じるか、そのようなシャーマンを訪れるかという項目群である ( $\alpha=0.83, 0.84,$

$0.80, 0.74$ )。バリヤンというシャーマンが日常的に機能しているバリ島、オージャというシャーマンが広く存在するベンガル、そして沖縄の順に高い値を示し、福岡は低い値を示した ( $F(3,758)=128.9^{**}$ )。

空想シャーマニズム n, $\alpha$ 係数	尺度ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n=213	0.61		n=241	0.62		n=160	0.53		n=162	0.49	
		平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
空想の中で、自分の心が体を離れて雲の上や他の土地に行ってみることがある	SHS1	1.91	1.21	.22	1.97	1.30		2.19	1.1		3.01	1.5	0.26
お墓、聖地や仏壇、拝所の前で自分の考えをまとめると、神や死者の助けを得て、いい考えが浮かぶことがある	SHS9	2.05	1.08	.55	2.19	1.09		2.98	1.2		4.21	1.1	0.28
神や死者に対して自分の悩みを打ち明け、何かのメッセージをもらうことがある	SHS10	1.75	1.06	.52	1.88	1.12		2.56	1.1		3.27	1.2	0.41
尺度値		5.70	1.21		6.03	2.66		7.70	2.46		10.5	2.7	

表 15 空想シャーマニズム尺度

空想シャーマニズムは、空想の中で上昇したり、良いアイデアが浮かんだり、超常的な能力の素質があるかどうかを示しており、

「空想対話尺度」とも関係があるであろう項目群である。バリ島で一番高い値を示し、ベンガル、沖縄と続いた ( $F(3,772)=130.2^{**}$ )。

## 10 神尺度 GS : 14 項目

神尺度 n, $\alpha$ 係数	尺度ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n=204	$\alpha=0.91$		227	0.91		n=143	$\alpha=0.92$		147	0.77	
		平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
私は神の存在を信じる	GS1	3.12	1.3	0.71	3.23	1.3	0.65	3.94	1.3	0.77	4.49	0.4	0.64
苦しいことがあった時や試験の時に、心の中で神に助けを求めていることがある	GS2	3.33	1.4	0.71	3.26	1.4	0.69	4.04	1.2	0.77	4.82	0.6	0.50
私は、唯一の絶対神に祈る	GS3	2.08	1.2	0.62	2.10	1.2	0.62	3.41	1.3	0.42	4.88	0.5	0.51
自分が成功したときは、神が自分を評価して成功させてくれたと思う	GS5	2.34	1.2	0.65	2.43	1.2	0.74	3.60	1.2	0.75	4.84	0.5	0.50
神は、自分に対してつらい試験を与えることもある	GS6	2.9	1.4	0.70	2.97	1.3	0.70	3.56	1.2	0.80	4.76	0.8	0.41
晴れてほしいときに、大雨が降り出すと、神の私への厳しい意志を感じる	GS7	1.71	1.0	0.65	1.82	1.0	0.53	3.32	1.2	0.73	4.78	0.7	0.44
人生の岐路にいるとき、神に問いかけ、何らかの答えをもらえたような気がした	GS8	1.94	1.1	0.72	2.05	1.1	0.72	3.59	1.1	0.71	4.48	0.9	0.42
おみくじなどで、神の考えの示唆を得たと思う	GS9	2.16	1.2	0.64	2.15	1.1	0.56	2.55	1.1	0.34	3.36	1.2	0.44
「神様」、「主よ」、など、神の名を口に出したり、心で言ったりする	GS10	1.37	0.9	0.59	2.21	1.4	0.65	3.69	1.1	0.75	4.81	0.6	0.54
神に祈る時間を決め、なるべく毎日何回も祈る	GS11]	2.00	1.2	0.50	1.39	0.8	0.58	3.14	1.2	0.59	4.64	0.7	0.24
私は、神によって生かされていると思う	GS12	1.74	1.1	0.70	1.90	1.2	0.66	3.67	1.2	0.80	4.91	0.5	0.54
神が人のからだに降りてきて、意識状態が変わることがありうる	GS13	1.74	1.1	0.52	1.71	1.0	0.57	3.18	1.2	0.59	3.73	1.3	0.31
神社や聖なる樹林(うたき)に神が降臨してくる	GS14	2.07	1.3	0.55	2.31	1.3	0.51	2.81	1.2	0.51	3.48	1.4	0.36
尺度値		28.9	11.0		29.5	10.8		44.5	11.1		58.44	5.7	
唯一神に祈らない方に：次の文章はどう思いますか		n=166		79.4%	n=186		78.5%	n=152		99%	n=127		86%
いろいろな神のかたちがあるが、それらの基礎となる一つの名のない神の存在がある	GS4	2.66	1.4	yes33.7%	2.89	1.3	yes32.8%	4.03	1.2	yes69.7%	4.87	0.5	yes 46.9%

表 16 神尺度

神尺度の尺度値は、バリ島が一番高く 58.4、次にベンガルが高く、44.5 であり、福岡、沖縄は低かった ( $F(3,722)=298.5^{**}$ )。信頼性係数は、それぞれ  $\alpha=0.91, 0.91, 0.92, 0.74$  であり、今後バリ島における尺度構造について、検討することが課題となろう。なお、GS3 と GS4 の項目についてふれておく。GS3 は、唯一神に祈るという項目で、5 件法で上位 2 つに回答した割合（唯一神に祈るとする人の割合）は、バリ島が 91%、ベンガルが 54%、福岡が 14%、沖縄が 13% であった。また、GS4 「唯一神に祈らない人で、神々の基礎となる一つの名のない神がある」は、必ずしも唯一神に祈らない人だけでなく、多数の回答を得た。5 件法の上位二つに回答した割合で言うと、ベンガルが 70%、バリ島が 47%、福岡が 34%、沖縄が

33% であった。このように、心の中（あるいは外）には一つの名のない神が存在し、それをスーパーパワーという人もいれば、サンヒャンウディという人もいるということであろう。

V その他の尺度

11 終末論尺度 ES:9 項目

キリスト教、イスラム教社会で信仰されている終末論を表す尺度である。バリ島とベンガルにおいて高い値を示した ( $F(3,745)=109.0^{**}$ )。また、尺度の信頼性は、表 17 の通りで、一定の高い値となった。

終末論尺度	尺度ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n=208	0.85		n=233	0.87		n=153	0.85		n=155	0.78	
n, $\alpha$ 係数		平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
この世界は近いうちに終わりの日を迎える	ES1	2.3	1.2	0.59	2.36	1.3	0.51	2.42	1.2	0.64	3.40	1.3	0.48
地震や災害などが多く起こると、この世の終末の前兆だ	ES2	2.3	1.1	0.63	2.31	1.2	0.66	2.75	1.1	0.64	2.95	1.2	0.63
この世の中の終わりがきても、信仰によって救われて、永遠の命を与えられる人々がいる	ES3	1.7	1	0.42	1.80	1.1	0.58	2.74	1.2	0.59	3.40	1.4	0.46
この世の中の終わりを決定する、絶対者が存在する	ES4	1.5	0.9	0.59	1.62	1.0	0.71	3.22	1.1	0.51	4.06	1.2	0.47
この世の中の終わりが、近いうちにやってくる	ES5	2.1	1.2	0.62	2.04	1.2	0.64	2.64	1.1	0.59	3.04	1.2	0.57
いくつかの予言において、この世の終わりが来るとされているのを信じる	ES6	1.8	1.0	0.69	1.85	1.1	0.74	2.48	1.1	0.60	2.74	1.2	0.50
この世の終わりが近い、という予言を聞くと怖い	ES7	2.6	1.4	0.37	2.79	1.4	0.35	2.41	1.1	0.42	2.78	1.3	0.22
終末の日、この世の矛盾が解決される救済の日である	ES8	1.6	0.9	0.64	1.89	1.0	0.67	2.93	1.1	0.56	3.09	1.4	0.42
終末の日には、救済者が来臨する	ES9	1.7	0.9	0.61	1.80	1.1	0.66	2.93	1.2	0.57	3.66	1.3	0.45
	尺度値	17.7	6.5		18.5	7.2		24.5	6.8		29.1	1.3	

表 17 終末論尺度

12 シンクレティズム態度尺度(尺度ラベル:SCT, 5 項目)

シンクレティズム（心理学的には異なる宗教的背景から派生する要素を共存させること）への態度とエキュメニズム（他宗派への

寛容）を測る尺度である。日本とベンガルの人々は、シンクレティズムに寛大である ( $F(3,758)=7.5^{**}$ )。ただし、総合的には低く出ているバリ島において、項目 4 が極めて高い値を示したことは、検討を要する。

シンクレティズム尺度	尺度ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n=211	0.81		n=237	0.80		n=156	0.73		n=158	0.89	
n, α係数		平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
元々、神は共通であり、所属する宗派以外の神社、寺、教会に行き行って折ってもかまわない	SCTS1	3.46	1.2	0.66	3.20	1.2	0.66	3.94	1.2	0.65	3.25	1.6	0.63
人々が自分の宗教以外の宗派の寺、教会に行き行って祈ることで、宗教対立は減るだろう	SCTS2	2.83	1.2	0.48	2.84	1.2	0.54	3.89	1.2	0.63	3.05	1.5	0.59
異なった宗教同士で取り入れたり融合したりすることは、かまわない	SCTS3	3.64	1.2	0.69	3.39	1.2	0.67	3.76	1.1	0.57	2.65	1.4	0.55
中央の宗教の教義に合わせるのではなく、伝統文化のやり方を残すことに賛成する	SCTS4	3.59	1.0	0.56	3.47	1.0	0.53	3.37	1.1	0.38	4.42	0.9	0.03
結婚式をキリスト教式に挙げた人が、子どものために七五三で神社に行くのは自然だ	SCTS5	3.48	1.2	0.59	3.50	1.1	0.54	3.08	1.1	0.24	2.45	1.4	0.41
尺度値		17.0	4.3		16.5	4.3		18.0	4.0		15.8	4.6	

表 18 シンクレティズム尺度

## 13 西沢のスピリチュアリティ尺度(尺度ラベル:SPS, 5項目)

スピリチュアリティ尺度	尺度ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n=212	0.72		n=234	0.74		n=156	0.73		n=159	0.67	
n, α係数		平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
理屈抜きで驚きの感情を引き起こす、神秘的な力を感じることもある	SPS1	2.83	1.2	0.41	2.74	1.5	0.40	3.94	1.2	0.65	3.29	1.3	0.35
日の出・日没・星空・野の花などの美しい自然にふれ、打たれたような感動を生じたことがある	SPS2	4.16	0.9	0.51	4.00	1.1	0.48	3.89	1.2	0.63	4.19	1.0	0.38
目に見えない神秘的な力が空・海・山・川・草・木のなかに存在している	SPS3	3.81	1	0.65	3.75	1.2	0.60	3.76	1.1	0.57	3.16	1.3	0.47
神社・お寺・教会のたたずまいに触れて、敬虔な感動を生じたことがある	SPS4	3.58	1.1	0.43	3.14	1.3	0.54	3.37	1.1	0.38	3.87	1.1	0.46
森羅万象(全ての自然)の中に、命が宿っている	SPS5	4.14	0.9	0.44	3.95	1.1	0.55	3.08	1.1	0.24	4.00	1.1	0.44
尺度値		18.5	3.6		17.6	4.3		19.0	4.0		18.5	3.9	

表 19 スピリチュアリティ尺度

西沢のスピリチュアリティ尺度は、聖なる体験のしやすさをはかっているが、インドベンガル地方において一番高かった。ただし、4つの

地域で、大きな差があるとは言えない ( $F(3,758)=24.6^{**}$ )。

## 15 空想対話尺度 (尺度ラベル:FDS, 5項目)

空想対話尺度	尺度ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n=211	0.73		n=240	0.73		n=162	0.44		n=160	0.56	
n, α係数		平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
ぬいぐるみを生きているかのように	FDS1	2.3	1.3	0.48	2.1	1.3	0.45	2.8	1.5	0.32	2.3	1.5	0.27
心の中で話しかける	FDS2	2.4	1.4	0.58	2.3	1.4	0.62	3.8	1.4	0.30	3.5	2.8	0.19
もう一人の自分と話して	FDS3	2.6	1.4	0.51	2.7	1.4	0.46	4.1	1.3	0.12	3.7	1.4	0.25
架空の人にあてた手紙	FDS4	1.5	1.1	0.50	1.6	1.0	0.46	2.1	1.5	0.20	2.0	1.3	0.32
速くから何かメッセージ	FDS5	1.5	1.0	0.38	1.6	1.0	0.47	2.5	1.4	0.21	1.7	1.1	0.43
尺度値		10.4	4.3		10.4	4.3		15.2	3.9		13.1	4.8	

表 20 空想対話尺度

空想対話尺度は、死生観と関係ない領域での空想対話のしやすさを表している。地域別の比較では、ベンガル地方が一番高く、次にバリ島が高く、福岡、沖縄は低かった

( $F(3,769)=53.7^{**}$ )。つまり、日本で死者との対話が多いのは、空想対話傾向が高いからではないことが明らかになった。

**16 Singelis 1994 の Self-Construal Scale 相互協調性尺度(尺度ラベル：SCS 6項目)**

相互協調性尺度	尺度ラベル	原典	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
			n=211	$\alpha = 0.67$		234	0.67		n=144	$\alpha = 0.57$		157	0.64	
			平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
グループの調和が大切	SCS6-1	Singelis 3	5.2	1.3	0.56	5.1	1.3	0.54	5.9	1.4	0.40	6.4	1.2	0.37
グループの調和に自己犠牲	SCS6-2	Singelis 1 1	3.9	1.4	0.60	4.0	1.3	0.55	4.9	1.7	0.43	4.8	1.6	0.43
人間関係大切	SCS6-3	Singelis 1 3	4.2	1.3	0.52	4.5	1.4	0.44	4.6	1.8	0.24	5.6	1.3	0.40
同じように振舞う	SCS6-4	Singelis 1 4	3.6	1.4	0.08	3.7	1.5	0.20	4.1	2.1	0.11	6.0	1.2	0.37
両親の意見を考慮	SCS6-5	Singelis 1 5	4.2	1.4	0.22	4.5	1.3	0.30	5.8	1.5	0.42	6.0	1.2	0.22
グループの決定は大切	SCS6-6	Singelis 1 7	4.6	1.1	0.54	4.8	1.1	0.43	5.1	1.5	0.34	5.9	1.0	0.41
	尺度値		25.7	4.8		26.5	4.8		30.3	5.7		34.8	4.5	

表 21 相互協調性尺度

SCS は、個人の中の相互協調性と独立的な自己観を示している。バリ島の人々が最も相互協調的であり、ベンガルの人々がそれに続

いた。逆に、福岡、沖縄は独立的であった ( $F(3,742)=126.3^{**}$ )。

**17 Diener ら 1985 の人生満足度尺度(尺度ラベル：SWLS 5項目)**

人生満足度尺度	尺度ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n=211	0.82		n=233	0.82		n=152	0.68		n=155	0.78	
		平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r	平均	SD	全体との r
私の人生は理想		3.8	1.3	0.66	3.6	1.3	0.65	4.6	1.8	0.30	4.0	1.4	0.59
人生を取り巻く状況は良い		4.6	1.1	0.61	4.4	1.3	0.61	4.3	1.6	0.50	4.5	1.5	0.59
人生に満足		4.4	1.3	0.73	4.2	1.5	0.70	4.7	1.7	0.56	4.5	1.6	0.56
大切な物事を得てきた		4.9	1.1	0.52	4.6	1.3	0.58	4.4	1.8	0.49	3.7	1.5	0.61
やり直しても変えたいものはない		3.2	1.4	0.56	3.1	1.5	0.52	3.8	1.8	0.33	2.8	1.5	0.40
	尺度値	20.9	4.7		19.9	5.2		21.8	5.7		19.5	5.4	

表 22 人生満足度尺度

人生満足度尺度は、ベンガルが一番高く、福岡、沖縄、バリ島と続いた ( $F(3,747)=6.7^{**}$ )。

**18 死別うつ尺度**

死別うつ尺度は、表 23 のとおりである。ベンガルとバリ島で、死別後のうつ状態が高かった。ただし、ベンガルにおける尺度構造が異なる可能性がある。とくに、ADDS7 の「死

にたい気持ち」について、インドにおける未亡人の後追い自殺 (sati) の伝統が何らかの影響を与えた可能性がある。今後、死別の背景(対象、年齢、心の準備など)との関連を見ながら検討する必要がある。

死別うつ尺度	尺度ラベル	福岡			沖縄			インドベンガル			バリ島		
		n, $\alpha$	n=201	0.89	n=211	0.89	n=132	0.68	n=148	0.86			
		Mean	SD	r with scale	Mean	SD	r with scale	Mean	SD	r with scale	Mean	SD	r with scale
長く体調がすぐれなかった	ADDS1	2.25	1.2	0.65	2.28	1.2	0.64	4.03	1.4	0.35	3.14	1.5	0.60
長く悲しみが続いた	ADDS2	3.27	1.3	0.77	3.15	1.4	0.73	3.54	1.4	0.56	2.86	1.4	0.68
長い間死者のことばかり思い出した	ADDS3	3.01	1.3	0.83	2.99	1.3	0.79	3.28	1.4	0.62	4.32	1.0	0.56
記念品をしばしば	ADDS4	2.78	1.3	0.59	3.19	1.4	0.65	3.49	1.4	0.37	3.90	1.2	0.58
後悔した	ADDS5	3.34	1.3	0.63	3.19	1.4	0.61	3.20	1.5	0.40	4.02	1.1	0.58
強くゆううつ	ADDS6	2.66	1.3	0.79	2.63	1.3	0.80	3.74	1.5	0.50	3.43	1.5	0.69
死にたい気持ち	ADDS7	1.55	0.9	0.42	1.51	0.9	0.40	1.67	1.2	-0.26	1.72	1.1	0.57
空虚感	ADDS8	2.94	1.4	0.64	2.61	1.4	0.61	3.48	1.4	0.42	2.39	1.4	0.68
Scale Mean	Scale mean	21.8	7.6		21.0	7.7		26.4	6.2		25.78	7.4	

表 23 死別うつ尺度

## 19 宗教別人数

表 24 は、宗教別の人数と％を示している。ベンガル、バリ島ともに、ヒンドゥー教が 75% を占めていた。仏教の割合は福岡が一番高く、25%であり、ベンガルが 7% で続いた。沖縄は 6%、バリ島は 2% と低かった。キリスト教徒

の割合は、バリ島、沖縄が高く、イスラム教徒の割合は、バリ島が一番高く、11%であった。「宗教はない」とする割合は、沖縄が 70%、福岡が 58%であった。逆に、バリ島は、インドネシアの法律で義務化されているためか、全員宗教を持っていた。複数の宗教に○をつけた人も、日本には多くいた。

	福岡		沖縄		ベンガル		バリ	
	n=211	%	n=246	%	n=156	%	n=160	%
仏教	54	25.2	14	5.7	11	7.1	4	2.5
神道	4	1.9	1	0.4				
キリスト教	9	4.2	19	7.7	7	4.5	14	8.8
イスラム教					3	1.9	18	11.3
ヒンドゥー教					117	75.0	120	75.0
ジャイナ教							3	1.9
シーク教					1	0.6		
ユダヤ教					2	1.3		
その他	2	0.9	13	5.3	1	0.6	1	0.6
宗教はない	125	58.4	172	69.9	14	9.0		
複数選択	9	4.2	7	2.8				

表 24 宗教別人数・％

## 考察

文化を比較するときは、2 者間の比較でなく、3 者以上の比較を行うべきである。3 者以上の比較がないと、実際の状況はつかめないことは、星の観測においてもそうであろう。ところが、これまでは、日本とアメリカの比較、日本と香港の比較など、二者間の比較が多かったことは事実である。その意味で、本研究は、福岡、沖縄、インドベンガル、インドネシアバリ島の 4 地域において「国際比較のための死生観尺度」を用いた調査を実施し、4 地域の比較が出来たことは大変有意義なことであった。本稿では、この調査で用いた尺度、項目の単純集計をおこない、4 地域で比較した。

まず、「魂の居場所 (place)」は、日本では

死者の魂が身近で具体的であるのに対し、ベンガル、バリ島ではより抽象的で距離があることがわかった。次に魂自らの意志で次を決めるという「魂の自律」は、4 地域とも予想以上に高かったと言えよう。欧米では、これらが低くなると予想され、アジア的とも言える内容であった。ヒンドゥー教地域と、日本との共通のイメージであろう。一方、「神の決定」は、日本できわめて低く、バリ島が一番高かった。バリ島については、宗教別の分析は要するが、神、祖先の観念を考える上で、独特の動きをしていると言えよう。死後の魂の「消滅」は、ベンガルが一番高く、大自然の元素に戻る「還元」はバリ島が一番高いなど、4 地域に大きな違いが存在した。「お盆」尺度は、沖縄、バリ島、福岡の順に高かった。ベンガ



ルは、すでに中村（2004a）が述べたように、お盆に相当する儀礼は一部の階層に限られ、全体としては低くなった。ただし、魂を迎えるという行事が、アジアに広く分布している（あるいは、いた）こと自体、興味深いことである。

次に、霊を信じる、霊を恐れる程度を表している「霊尺度」では、バリ島が一番高く、沖縄、福岡と続いて、ベンガルが一番低い。「祖先対話尺度」はバリ島、沖縄、福岡とつづき、ベンガルではかなり低い。「祖先、神等への働きかけ尺度」では、直接死者に対して平安を祈るのが、福岡、沖縄で80%を超えるが、バリ島、インドではきわめて低い。一方、神に死者の平安を祈るのはバリ島が88%、インドが40%に対して、日本ではきわめて低い。このように見てゆくと、インドでは死者を意識から遠ざける文化装置を持っているようである。一方、日本では、神を介さない死者との直接交流の文化装置を持っているといえるのか、何かの変容の過程であるのかと想像される。これは、苦しい時に助けを呼ぶ対象が、日本では死者、祖先であるのに対し、インド、バリ島では神であることに現れている。バリ島は、神の回路と、祖先の回路の両方を備えているとも言える。

ここで、インドとバリ島を対比してみたい。同じヒンドゥー教社会でありながら、死者にお供えをする程度は全く異なり、バリ島では高い比率でお供えをする。「神尺度（GS）」（表16）において、唯一神を信じる率は、バリ島が一番高かった。「名のない一つの神」を信じる比率は、ベンガルにおいて一番高かった。「死後に行きたいところ（GAD6）」（表8）においては、インドとバリ島の大きな違いが出た。「神の許に行きたい」という人がベンガルで多いのに対し、「神と合体したい」という人、あるいは「解脱したい」人がバリ島で多い。

日本では、これらとも大きく異なっていた。日本では、「先に死んだ家族や知人の居るところ」という回答が高くなっている。これらは、単に集団主義では説明できない。表21で示した「相互協調的自己」は、まさに集団主義を表しているが、これはバリ島、ベンガルが高いからである。

さて、「輪廻尺度」、「因果尺度」は、ヒンドゥー地域で高くなった。インタビュー（中村

2004a）においては、インドの学生が輪廻を否定する人が目立ったが、集団で比較すると、やはり高い。しかし、バリ島の方が高い。これらが、宗教別、年齢別でどのように現れてくるかの分析が、今後なすべき課題である。

次に、「シャーマニズム3尺度」では、バリヤン、オージャ、ユタなどのシャーマンが居る地域ほど、高い傾向が出たといえよう。「変容シャーマニズム」では、バリ島と沖縄は、同じくらいの高い値を示した。シャーマニズム心性は、まさに靈魂と自分との関わりを表しており、心の仕組みに与える影響は大きいはずであるが、これらが文化により異なっていると見えるわけである。心に影響を与える文化装置の存在感は大きい。

さて、「終末論尺度」は、バリ島、ベンガルで高いが、5件法であることから考えると、バリ島以外は平均3点を下回るので、さほど大きな影響力はないと言える。インドネシアでは、終末論の影響が強いつ感じられたが、これも宗教別に分析が必要である。「シンクレティズム態度尺度」では、日本とベンガルが高く、寛大である。逆に言うと、インドネシアでは、寛大ではないのかも知れない。これも宗教別の分析が必要となろう。

「スピリチュアリティ尺度」「空想対話尺度」ともインドベンガル地方が一番高かった。空想力、聖なる体験への感受性などを表していると思われるが、インドの独特な心理機制、文化装置を予想させるものである。「人生満足度」もインドベンガルが一番高くなったのも、これらと関係するののか、興味深い。

このように、4地域で様々な対比がなされたが、他の地域との違いを認識することは、心のあり方の可能性を知ること意義深いことである。今後、年齢層、男女別に比較すること、宗教別に分けて比較することも重要となろう。さらに、死生観尺度と既定の尺度との相関を取ることで、死生観と社会的な脈絡との関係や、死別うつ状態との関係、幸福感との関係を明らかにすることが課題である。また、地域のアイデンティティ（移住者か、ネイティブか）によって死生観に違いがあるのか、比較することも大切であろう。また、中国のデータが近々入手できるので、5地域、6地域間の比較が出来ることを期待している。

## 文献

Diener, E., Emmons, R. A., Larsen, R. J., & Griffin, S. (1985). The satisfaction with life scale. *Journal of Personality Assessment*, 49, 71-75.

中村俊哉, 倉元直樹, 中島義実 2004 死生観国際比較のための尺度作成について - 日本における祖先対話, 輪廻, 日常的シャーマニズム - 福岡教育大学紀要 53-4 265-280

中村俊哉 2004a 南アジアの死生観 インタビュー法から 福岡教育大学紀要 53-4 247-263

中村俊哉編 2004b 平成13年～平成16年度科学研究費補助金 基盤研究(B)-(1) 研究成果中間報告書 文化による死生観・介護観の差異・変容に関する心理福祉学的調査研究 (課題番号 13571007)

中村俊哉 印刷中 インドネシアの死生観バリ, ジャカルタ, ジョグジャカルタにおけるインタビューから 福岡教育大学紀要 54-4

Singelis, 1994, *Personality and social psychology bulletin*, 20, 580-591.

Wong, P. T., Reker, G. T., Gesser, G. 1997 *Death Attitude Profile-Revised: A Multidimensional Measure of Attitudes toward Death*. In Neimer ed. *Death Anxiety Handbook*, Taylor&Francis, Ch. 6

## 謝辞

本稿作成にあたり, 通訳をしていただいたWayan SUARDITAさん, 佐々木理子さん, Debasish Dasさん, Bimal Kumar Paulさん, 調査へのご協力をいただいたインドネシア国立ウダヤナ大学, インドのヴィシュワバーラティ大学の古田彦太郎先生, Padmaruchi Mukherjee先生, 沖縄国際大学の稲福みき子先生, 桃原一彦先生, 沖縄大学の井村弘子先生, 琉球大学の市井雅哉先生に心より感謝申し上げます。また, 東北大学大学院の佐藤洋之さん, 福岡教育大学の入江建次先生, 江上由実子先生, Daniel Mackeyさん, リリス ルンバンドピンさん, 申琳琳さん, 陳紹暉さん, 舛田亮太さん, 古賀由衣さん, 豊倉礼子さん, 渡邊資子さん, 横山貴史さん, 近藤英二さん, 柴田直也さん, 武本匡平さん, 福留大輔さん, 今泉千春さん, 石谷佳子さんに心よりお礼申

し上げる。